

令和6年度下水道事業会計予算編成にあたって

富田林市長 吉村 善美

令和6年度下水道事業当初予算は、私が富田林市長に再任された後に臨む初めての当初予算となります。私が所信表明において、市民の皆さまに約束した、富田林版「こどもまんなか社会」の実現をはじめとする2期目の公約実現に向けて動き出すための重要な予算編成です。

昨今の原材料価格の上昇や円安の影響等によるエネルギー価格・物価の高騰など厳しい経営環境の中でも、将来へ負担を送ることのないように、今のこどもたちに負担を強いることのないように下水道事業を安定的に経営していくことが求められます。

私の政治信条である、「市民とともにつくる、市民が幸せになる、市民本位の市政」の実現に取り組み、誰もが「富田林に生まれて良かった、暮らして良かった、長生きして良かった」と思っていただけ富田林の創造に向けて、「一つ、ひとつ、未来へ」形づけていくため、まい進していく決意に揺るぎはありません。

令和6年度予算編成に当たっては、決算の傾向もふまえつつ、要望の見直しも含め、より効率的な予算とするよう、必要な事業を精査し、重要度、優先度に応じて選択と集中を行ってください。「富田林市下水道事業経営戦略」に基づく施策を着実に進め、予算はこれを踏まえたものとしてください。

本市下水道事業は、令和6年度に生活排水100%の適正処理を目指してきました。また、生活排水処理施設の整備の概成に加えて、老朽化対策として、下水道施設の長寿命化も進めていかなければなりません。引き続き、公共下水道事業と公共浄化槽事業を併用し、「生活排水処理100%」の早期実現に努めたいと考えています。

(財政状況と見通し)

令和5年7月時点での使用料調定額の対前年度比は97.0%となっています。整備進捗に伴う新規接続はあるものの、人口減少や節水機器の普及による影響が大きく、使用料収入については減少傾向にあり、令和4年度においても対前年度比で減少となっています。その他の収益の増加も見込めない状況にあります。

費用面では、大阪府に支払う流域下水道維持管理費負担金の決算額が、令和4年度において対前年度比104.6%となっているほか、整備進捗に伴って減価償却費も増加が続いています。さらに、令和7年度から流域下水道事業維持管理費において、減価償却費に対する負担金の見直しにより増額していくことが決まっているほか、同じく大阪府に支払う流域下水道建設負担金においても、大幅な増額が計画されています。

本市においても、管渠の老朽化も進んでおり、修繕、改築等を行っていかねばなりません。また、近年、局地的な豪雨も増加していることから、雨水対策の必要性も高まっています。さらに、物価についても、急激に上昇しており、この状況が続くことになると、支出を増大させる懸念材料となります。

このように、収益、費用の両面から収支が悪化する傾向が継続しており、厳しい状況下にあります。そのうえで、新規整備、既存施設の適正な維持管理に努めなければなりません。財政面は非常に厳しい状況が続いていると認識してください。

(予算の基本方針)

収入の予算編成は、受益者負担の原則、住民公平性確保観点から諸物価動向、他市の状況などから、適切なタイミングで見直しを行い、的確な額を計上してください。

支出の予算編成は、財源を意識し、収入に見合ったものとしてくだ

さい。

財源の確保については、国庫支出金、公営企業債、分担金などを最大限活用してください。

以上、令和6年度予算編成の基本方針とします。